

札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えた MM教育の実践的取組み

伊藤 健太郎(札幌市立幌西小学校)、稲村 輝・佐々木 健市(札幌市市民まちづくり局総合交通計画部)、大井 元揮・工藤 みゆき(一般社団法人北海道開発技術センター)、新保 元康(札幌市立発寒西小学校)、高野 伸英(北海道大学大学院工学研究院)

背景 目的

公共交通を賢く使うことが、札幌の豊かな自然環境を維持するためにとっても大切な役割を果たす。
→ 初等教育から効果的に学ばせるために、教材・授業プログラム等を開発し、札幌市内の小学校で広く実践されることを目指す。

札幌市の 取り組み ポイント

- MM教育を札幌市の小学校全体に拡大するには、出前講座形式では限界がある。
教諭主体の授業実践!
- 各学年でMM教育を実践することにより、効果はより確かなものになる。
各学年を対象に実施!
- 「過度な自動車利用を抑制・公共交通の利用拡大」を図る団体が連携を実施することで、より効果的・効率的に学校を支援可能になる。
関係機関の連携を重視!

全学年で 実践!

研究事業の蓄積・教諭が主体となった授業の実践

実施時期	学校	学年	教科	担当教諭	授業内容
H23年度(3学期)	屯田小	5年生	社会	斉藤健一	暮らしを支える情報
H24年度(1学期)	手稲宮丘小	5年生	総合	牧野宣英	環境について考えよう
H24年度(1学期)	山の手南小	5年生	総合	栗原聡太郎	環境HOT COM
H24年度(2学期)	本通小	3年生	社会	河崎一貴	もっと知りたいみんなのまち
H24年度(2学期)	屯田小	6年生	社会	斉藤健一	暮らしの中の政治
H25年度(1学期)	山の手南小	4年生	総合	佐野浩志	身近なバスと私たちの暮らし
H25年度(1学期)	山の手南小	6年生	社会	栗原聡太郎	暮らしの中の政治
H25年度(2学期)	福住小	3年生	社会	河原秀樹	わたしたちの市のようす
H25年度(2学期)	山岸南小	4年生	総合	高橋浩史	わたしたちのくらしと市電
H25年度(2学期)	本通小	4年生	総合	河崎一貴	わたしたちのくらしと公共交通
H25年度(2学期)	屯田小	3年生	社会	斉藤健一	昔の道具とくらし
H25年度(2学期)	手稲宮丘小	6年生	社会	牧野宣英	暮らしの中の政治
H25年度(3学期)	三角山小	1年生	道徳	内藤広大	でんしゃのトリー
H26年度(2学期)	幌西小	3年生	社会	伊藤健太郎	昔の道具とくらし
H26年度(2学期)	手稲宮丘小	3年生	社会	牧野宣英	昔の道具とくらし
H26年度(3学期)	三角山小	2年生	生活	内藤広大	スノーランド
H26年度(3学期)	日新小	5年生	社会	玉山大輔	生活環境を守る

本プロジェクトの目標とそれに対応した実施結果

目標	実施・検討内容等
目標① 学習指導要領と連動した学習プログラムの開発	・教諭を主体とするワーキンググループを設置し、学習プログラムを検討・研究授業の蓄積 ↳ 全学年において研究授業実践! ※3年生以上は、各学年3回以上の実績(1年生:1校、2年生:1校、3年生:5校、4年生:3校、5年生:4校、6年生:3校)
目標② 1年生～6年生まで、各学年におけるMM教育の実施	・教諭が主体となった授業の実践 【平成23年度】札幌市立屯田小学校・斉藤教諭 【平成24年度】札幌市立手稲宮丘小学校・牧野教諭、札幌市立山の手南小学校・栗原教諭、札幌市立本通小学校・河崎教諭、札幌市立山の手南小学校・佐野教諭、札幌市立福住小学校・河原教諭、札幌市立山岸南小学校・高橋教諭、札幌市立本通小学校・河崎教諭、札幌市立屯田小学校・斉藤教諭、札幌市立手稲宮丘小学校・牧野教諭、札幌市立三角山小学校・内藤教諭 【平成26年度】札幌市立手稲宮丘小学校・牧野教諭、札幌市立日新小学校・伊藤教諭、札幌市立三角山小学校・内藤教諭、札幌市立日新小学校・玉山教諭
目標③ 教諭が主体となった授業の実践	・指導案集の作成・副読本の作成 ・webプラットフォームによる情報提供 ・教諭を対象とした「札幌らしい交通環境学習フォーラム」の開催
目標④ 札幌市内小学校へのMM教育の広がり	・協働体制の構築に向けた検討 ↳ 子どもの環境情報誌「エコチル」と連携した札幌市の公共交通について考える作文コンクールを平成24・25年度に実施。平成26年度には、公共交通アイデアコンテストを交通事業者とも連携し開催。交通事業者と連携した体験学習を実施。学識経験者・行政機関・関係団体・市民代表・交通事業者との連携体制は、次年度以降も継続
目標⑤ 関係団体等の連携体制の構築	

プロジェクトの検討 ・推進体制

学識経験者

委員長：高野 准教授(北大)
谷口 准教授(筑波大)

札幌らしい交通環境学習検討委員会

行政関係

・北海道運輸局・札幌市交通局
・北海道開発局・札幌市総合交通計画部(事務局)

関係団体

・札幌地区バス協会・(財)北海道環境財団
・「地域と教育」を元気にするフォーラム・(株)アドバコム

学校関係

・札幌市教育委員会
・札幌市立小学校教諭(校長1名・教諭10名)

WGの設置

WGは、26年度からプロジェクトチームとして体制を継続!

学習プログラムの開発

【目的】

- MM教育を小学校において教諭主体で実施
- MM教育を札幌市小学校全体に広める

【方法】

- 研究授業を数多く実践し、カリキュラム構築

【留意点】

- MM教育を広めるために、「小学校で実践しやすいカリキュラム」を構築

【指導案】



【副読本】



「札幌らしい交通環境学習 フォーラム」

副読本を 活用した 授業実践!

- 開催日時：2014年8月26日(火)13:30～17:00
- 対象：札幌市内の小学校教諭・交通関係者
- 場所：札幌市立幌西小学校
- 参加者：84名(うち：小学校教諭53名)
- プログラム：
 - 13:30～ 開会あいさつ
 - 13:35～14:20 公開授業(授業者：伊藤教諭[3年生])
「さぐってみよう昔のくらし～乗り物で生活が変わったよ～」
 - 14:20～14:35 休憩・移動
 - 14:35～15:25 意見交換会
【進行】牧野宣英教諭(札幌市立手稲宮丘小学校)
【授業者】伊藤健太郎教諭
【助言】谷口綾子氏
(筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授)
菅野智広氏
(札幌市教育委員会学校教育推進課研修担当係長)
 - 16:10～17:00 パネルディスカッション
「公共交通と交通環境学習のこれからについて」
【コーディネーター】新保 元康氏(札幌市立幌西小学校長)
【パネリスト】谷口綾子氏、菅野智広氏
新津 順一
(札幌市市民まちづくり局総合交通計画部公共交通担当部長)

子ども環境情報誌「エコチル」で 「みんなで考える公共交通アイデアコンテスト」

- 札幌市では、「札幌らしい交通環境学習」を、将来的に、札幌市内の全小学校で実施することを見据え、平成23年度から活動を展開。
- 平成24年度から子ども環境情報誌「エコチル」によるMMを展開。従来、児童へアプローチを行うMMは行政や教育委員会が主導となることが多いが、本取り組みは民間主導で実施されたもの。

*エコチルで募集・報告:
2014年11月号:募集記事掲載
2015年3月号:審査結果掲載

【応募数/339作品】

エコチル とは

●発行(株)アドバコムが2006年にスタート
●札幌市内201校の小学校と児童会館で毎月配布(発行部数:10万部)
●仕様:タブloid判(全4色、8～20ページ)
●内容:環境についての特集や、各学校で取り組まれている環境教育の紹介等、子ども達が楽しく環境活動をするような企画を行う。

本プロジェクトの成果と今後の展開

【本プロジェクトの成果】

- 全学年で公共交通に関する指導案を立案
- フォーラム等を通じ、認知度も徐々に向上
- 3年生社会科の副読本「私たちの暮らしを支える公共交通」を作成し、全小学校へ配布!
- 平成26年度改訂「教師用指導書」(札幌市教育委員会発行)にMM教育の指導案が掲載!

【今後の展開】

- 教諭が授業づくりをしやすい環境をつくっていくため**教諭用授業ハンドブック**を作成(平成27年度中)
- 授業実施校の拡大
- 「札幌らしい交通環境学習フォーラム2015」を開催予定(8月7日)